

平成24年度決算に係る

定期監査
決算審査
調書

平成25年6月

農林水産部農林総合研究所
林業試験場

目 次

1	前年度指摘事項等に対する措置等	1頁
	(1) 指摘事項	1
	(2) 監査意見	1
	(3) 決算審査意見	1
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項に対する処理状況	1
3	組織及び業務調べ	1
4	職員の定員、現員調べ	1
5	役付職員の調べ	1
6	主な事業に関する調べ	2
7	決算調書(総括表)	6
8	事業別実施状況調べ	7
9	予備費の充用調べ	7
10	繰越関係調べ	7
	(1) 継続費逋欠繰越調べ	7
	(2) 繰越明許費調べ	7
	(3) 事故繰越調べ	7
11	収入証紙取扱額調べ	8
12	収入事務処理状況調べ	9
	(1) 分担金及び負担金	9
	(2) 使用料	9
	(3) 手数料	9
	(4) 財産収入	9
	(5) 寄付金	9
	(6) 諸収入	10
	(7) 現金の取扱状況	10
13	税外収入未済額調べ	10
14	未収金回収促進のための取り組み状況調べ	10
15	税外収入不納欠損額調べ	10
16	債務負担行為の状況調べ	11
17	負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ	11
	(1) 負担金	11
	(2) 補助金	11
	(2-2) 補助金(他課から予算の配当替え又は令達を受けて執行したもの)	11
	(3) 交付金	11
	(4) 委託料	12
19	財産に関する調べ	13
	(1) 公有財産	13
	(2) 金券類の受払状況	15
	(3) 基金	15
	(4) 債権	16
20	財産の貸付及び使用許可調べ	17
	(1) 土地及び建物	17
	(2) 物品(1品の取得価格が100万円以上のもの)	17
21	借受不動産明細調べ	17
22	職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ	18
	(1) 職員住宅	18
	(2) 職員駐車場	18
23	自動車(二輪を除く)の管理状況調べ	19
24	寄附物件の受納状況調べ	19
25	備品の処分状況調べ	19
26	現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	19
27	貸付金等状況調べ	19
28	事業別予算執行状況調べ	20
29	農業機械の管理状況	22
30	生産物(品)に関する調べ	22
31	試験研究調査事業別実地状況調べ	23
○	意見、要望等	30

1 前年度指摘事項等に対する措置等

- (1) 指摘事項 該当なし
- (2) 監査意見 該当なし
- (3) 決算審査意見 該当なし

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項(口頭指摘を含む。)に対する処理状況 該当なし

3 組織及び業務調べ

課名	係(担当)名	課の主な所掌事務
農林水産部農林総合研究所 林業試験場	森林管理研究室	(1) 林業経営に関すること。 (2) 育林・育種に関すること。 (3) 森林保護に関すること。 (4) 林業機械に関すること。 (5) 森林防災に関すること。 (6) 特用林産に関すること。 (7) 21世紀の森の管理に関すること。 (8) その他森林管理に関すること。
	木材利用研究室	(9) 木材の加工・性能に関すること。 (10) 木材の保存処理に関すること。 (11) 未利用資源の有効利用に関すること。 (12) その他木材利用に関すること。

4 職員の定員、現員調べ

(平成25年4月1日現在)

種別 区分	事務職員		技術職員		現業職員		計		備考
	当該年度	24.4.1現在	当該年度	24.4.1現在	当該年度	24.4.1現在	当該年度	24.4.1現在	
定員	0	0	12	12	2	2		14	
現員	() 0	() 0	() 11	() 12	() 2	() 1	() ()	() 13	
過不足(Δ)	0	0	Δ 1	0	0	Δ 1	Δ 1	Δ 1	
臨時職員	0	0	0	0	0	0	0	0	
非常勤職員	2	2	0	0	18	17	20	19	事務員2名・林業技術員16名・展示館管理人2名・

5 役付職員の調べ

(平成25年6月1日現在)

職名	氏名	在職期間		備考
		年	月	
場長	大西 良幸	0	2	
森林管理研究室長	有吉 邦夫	1	2	(通算5年2月)
木材利用研究室長	西村 臣博	3	2	

6 主な事業に関する調べ

事業名	概	要
高性能林業機械の稼働率を向上させる現地モデル試験	ア 目的及び事業の実施状況	
決算額 (財源内訳)	(ア) 目的 近年、作業の開設と高性能林業機械の導入が増加している。性能林業機械を使える環境が整いつつあり、高性能林業機械の効率的な運用を行う必要がある。そのためには高額な投資である高性能林業機械の稼働率をいかにして向上させるかがコスト縮減への鍵となる。本試験研究において現地モデル試験を行い、稼働率を制限する問題点を明らかにし効率のよい機械の運用方法の指針を示すことである。	
736千円		
一般財源	(イ) 事業の実施状況 伐採搬出作業は、伐木、木寄せ、造材、集材の4工程からなる。そのうち、造材工程は高性能林業機械を使うが、高性能林業機械を使わない伐木・木寄せ工程の生産性と差が生じる。そこで、伐木、木寄せの作業方法を現地試験で検証した。	
736千円		
○将来ビジョン	1. 伐木試験 従来どおりチェーンソー伐木を1人単独で行う方法と2人1組で行う方法の生産性を比較した。	
○将来ビジョン	2. 木寄せ・造材試験 高性能林業機械にウインチを付け（ウインチ付きハーベスタ）、木寄せ・造材工程の生産性を検証した。	
3 自然豊かな恵みと守る		
(1)豊かな自然・環境を守り、育て、次代につなげる	イ 平成24年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点 平成23年度と同様の機械構成で試験を行い結果について検証を行った。	
	ウ 成果	
	1. 伐木試験 平成24年度の試験においては1人単独作業に対して2人1組の作業効率の有意差は見られなかった。2人作業で作業効率が向上する作業条件を見極めなければならない。	
	2. 木寄せ・造材試験 木寄せ・造材の行程を分析した結果、木寄せの行程が全行程の47%を占めており、この行程中はハーベスタとしてではなくウインチとして稼働している。木寄せの行程の効率化が重要なポイントとなる。	
	エ 課題 伐採工程の効率化においては安全性を考慮した検証を行う必要がある。高性能林業機械の稼働率の制限要因を明らかにし、現場条件が異なっても変わらない要因を的確に捉え安全に作業効率を上げる方向を示す必要がある。	

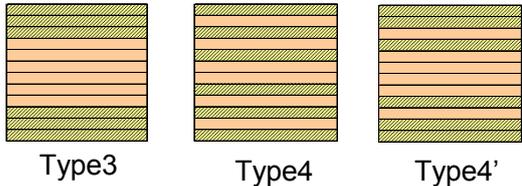
6 主な事業に関する調べ

事業名	概	要
<p>地下流水音探査法を用いた効果的山地災害対策のための技術開発</p> <p>決算額 374千円 (財源内訳) 一般財源 374千円</p> <p>○将来ビジョン 3 自然豊かな恵みと守る (1)豊かな自然・環境を守り、育て、次代につなげる</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア) 目的 近年、大型化する台風や集中豪雨の発生、また、基幹作業道等の開設が増加しつつある状況において、今後路網開設に伴う災害の増加が懸念される。路網に係る災害の発生を防止・軽減するためには、危険箇所を回避したルート設定が重要である。山地における危険箇所の簡易判定技術として、斜面崩壊と密接な関係がある地下水の水みちを音により探査する方法が開発されたが、調査事例が少なく実用化に至っていない。 そこで、本県の林道・作業道開設予定地等で地下流水音探査法の実証試験を行い、地下流水音探査法による危険箇所判定技術を実用化する。</p> <p>(イ) 事業の実施状況 ① 地下流水音探査による自然斜面での水みちの推定 複数の開設前の林道予定地で地下流水音探査を行い、その結果から水みちを推定するとともに、開削後の法面から発生した湧水位置との関係について検討した。 ② 地下流水音探査の最適な測定タイミングの検討 同一地点で前日までの降雨状況が異なる測定日を選んで複数回測定を行い、調査結果にどのような差が生じるか検討した。</p> <p>イ 平成24年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点 前年度の予備実験で、地下流水音探査による水みちの推定が可能なが分かったので、本年度は測定結果が一般性を持つかどうかを検証する試験内容とした。</p> <p>ウ 成果 ① 地下流水音探査による自然斜面での水みちの推定 測定斜面において複数の水みちを推定することができた。開削後の法面に発生した湧水の位置と推定された水みちの位置は概ね一致していた。 ② 地下流水音の最適な測定タイミングの検討 測定日前日までの降雨状況により測定される地下流水音の大きさは異なったが、推定される水みちの位置は概ね同じであった。</p> <p>エ 課題 調査にあたっては測点間隔を2mとしているが、測線の延長が長くなると1回の測定に要する時間が大きくなり、多地点での測定が困難となる。 測点間隔を長くするか、機械のパラメータ調整等により測定時間を短くする必要がある。</p>	

6 主な事業に関する調べ

事業名	概要
<p>県産材の住宅内装用床材としての性能評価とデータベース化</p> <p>決算額 411千円</p> <p>(財源内訳) 一般財源 411千円</p> <p>○将来ビジョン 3 自然豊かな恵みと生活を守る</p> <p>(1)暮らしの安全・安心の充実</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア)目的 県産材の良さを体感できる「床材」としての利用を開拓するため、県産材の住宅内装用床材に関する各種性能の評価を行い、県産住宅内装床材の性能に関するデータベースを構築する。</p> <p>(イ)事業の実施状況</p> <p>① 床材の経年劣化に関する現地調査 無垢材および複合1種フローリング(合板の上に広葉樹の薄板を貼り塗装した床材)の床材の、キズや汚れなどの劣化状況について、現地調査を行った。</p> <p>② スギ・ヒノキ厚板の曲げ性能 床板を厚くすることのメリットについて、たわみ量の減少程度を実測値と計算値の比較により検証した。</p> <p>③ 床板材の温かみの計測 ヒトの身体が床に接触したときの接触面温度の変化を明らかにするため、ヒトの皮膚と温度を再現した装置を試作しモデル実験を行い、無垢材と複合1種のフローリングの接触面温度の変化の特徴を調べた。</p> <p>イ 平成24年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点</p> <p>鳥取大学工学部との共同研究であり、共同研究契約の迅速な締結と、連携による円滑な実験の遂行及び現場が使いやすいデータの収集に心がけた。</p> <p>ウ 成果</p> <p>①床材の経年劣化に関する現地調査 スギ無垢材の床は、イスやテーブルの脚、遊具などによるキズやへこみが見受けられた。また、食べ物の落下による汚れも認められた。一方、複合1種フローリングも、テレビ台の車輪による化粧板のはがれや、イスによるキズが認められ、紫外線や結露による表面汚染は美観の大きな低下をもたらしていた。いずれの床材も「メンテナンスフリー」はあり得ず、定期的な手入れが大切である。</p> <p>②スギ・ヒノキ厚板の曲げ性能 曲げ試験によるたわみ量の測定では、1kN(約100kg)の荷重をかけたとき、30mmの厚みの床板は24mmに比せたわみは約45%減少した。また計算値は実測値と高い相関を示した。同じたわみ量であればヒノキはスギに比べ3mm薄くすることが出来る。</p> <p>③床板材の温かみの計測 接触面温度は、無垢材(スギ、ヒノキ、マツ、サクラ)、複合1種フローリングともに、装置に接触させた直後急激に低下し、その後徐々に上昇していった。密度の低いスギは他の材料に比べて温度の低下が少なく、温かみを感じやすい素材である。一方、複合1種フローリングは、接触直後の温度低下が極めて高く、触った瞬間に冷たく感じやすい素材であることが裏付けられた。</p> <div data-bbox="630 1500 1165 1803" style="text-align: center;"> <p>Figure 1: Contact surface temperature change over time for various materials. The graph shows that composite flooring (purple) has the most significant initial temperature drop, while Sugi (red) has the least.</p> </div> <p>エ 課題</p> <p>県民にわかりやすい形でデータを取りまとめ、県産材への理解と普及につなげていきたい。</p>

6 主な事業に関する調べ

事業名	概 要																																																
<p>スギ・ヒノキを活用したハイブリッドLVLの生産・利用技術の確立</p> <p>決算額 968千円</p> <p>(財源内訳) 一般財源 968千円</p> <p>○将来ビジョン 3 自然豊かな恵みと生活を守る</p> <p>(1)暮らしの安全・安心の充実</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア)目的</p> <p>住宅用、特に枠組壁構法住宅用間柱・横架材としての活用を目指し、スギ・ヒノキによるハイブリッドLVLの生産・利用技術を確立する。本研究成果により、良品質のハイブリッドLVL製品を全国に発信し、鳥取県産材の需要拡大、間伐の促進、地域産業振興に貢献する。</p> <p>(イ)事業の実施状況</p> <p>平成23年度(1年目)に絞り込まれた条件をもとに実機により数種の製品を試作し、各種性能(曲げ接着、せん断、反り)について試験・評価をおこない、JASや社内基準に適した積層構成を決定した。</p> <p>イ 平成24年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点</p> <p>ハイブリッドLVLを試作する際、スギとヒノキの組み合わせや試験項目について条件を出る限り絞り込み、効率よく試験・比較できるよう努めた。</p> <p>ウ 成果</p> <p>積層方法の異なる3タイプのハイブリッドLVLを実機で試作し、そこから試験片を切り出し所定の試験を行った結果、強度性能と、接着はく離の全ての試験でJAS基準の範囲内であった。一方、反りについては、3タイプで異なる傾向が認められた。以上の結果をもとに比較した結果、12枚積層した内の外側2枚と4枚目をヒノキ、それ以外をスギにした組み合わせ優位と判断した。</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>図 試作したハイブリッドLVL (斜線部がヒノキ、それ以外はスギ) 異等級:強度性能がヒノキ100、スギ60 同一等級:ヒノキ80、スギ80</p> </div> </div> <table border="1" style="margin: 20px auto; text-align: center;"> <caption>表 試作したハイブリッドLVLの試験結果</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">異等級</th> <th colspan="3">同一等級</th> </tr> <tr> <th>T3</th> <th>T4</th> <th>T4'</th> <th>T3</th> <th>T4</th> <th>T4'</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>曲げヤング係数</td> <td>○</td> <td>△</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>△</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>曲げ強さ</td> <td>○</td> <td>△</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>△</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>水平せん断</td> <td>○</td> <td>△</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>△</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>はくり</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>反り</td> <td>△</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>△</td> <td>△</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>エ 課題</p> <p>2年目までの結果を基に、実用化を前提にした積層構成を最終決定しハイブリッドLVLを作製、各種性能を確認するとともに、JAS認証を目指す。 また、LVLに直交単板層を挿入した場合の性能を小試験体により評価し、商品としての将来性を検証する。</p>		異等級			同一等級			T3	T4	T4'	T3	T4	T4'	曲げヤング係数	○	△	○	○	△	○	曲げ強さ	○	△	○	○	△	○	水平せん断	○	△	○	○	△	○	はくり	○	○	○	○	○	○	反り	△	○	○	△	△	○
	異等級			同一等級																																													
	T3	T4	T4'	T3	T4	T4'																																											
曲げヤング係数	○	△	○	○	△	○																																											
曲げ強さ	○	△	○	○	△	○																																											
水平せん断	○	△	○	○	△	○																																											
はくり	○	○	○	○	○	○																																											
反り	△	○	○	△	△	○																																											

7 決算調書
(総括表)
一般会計

(平成25年5月31日現在)
(単位:円)

区分	科目	予 算 現 額				計 算	決算額	翌年度 繰越額	差引増減額 A-B-C	備 考
		当初予算額	補正予算額	継続費及び 繰越事業費 繰 越 額	予備費 支出及び 流用増減					
歳 出	農業 総 務 費	9,763,000	2,116,000			11,879,000	8,854,252	2,116,000	908,748	
	農業 改 良 普 及 費	70,952,000	2,483,000			73,435,000	59,681,949		13,753,051	
	農業 試 験 場 費	85,433,000	146,000			85,579,000	76,546,262		9,032,738	
	園 芸 試 験 場 費	168,803,000	83,000			168,886,000	158,577,771		10,308,229	
	畜 産 試 験 場 費	138,648,000				138,648,000	130,665,774		7,982,226	
	中 小 家 畜 試 験 場 費	105,186,000	16,765,000	24,783,750		146,734,750	125,074,601	16,765,000	4,895,149	
	林 業 試 験 場 費	61,059,000				61,059,000	52,759,921		8,299,079	
	合 計	639,844,000	21,593,000	24,783,750	0	686,220,750	612,160,530	18,881,000	55,179,220	
	農 林 水 産 業 手 数 料	3,774,000				3,774,000	5,039,500		△ 1,265,500	
	農 林 水 産 業 国 庫 補 助 金	16,311,000	255,000			16,566,000	15,748,000	819,000	△ 1,000	
同 上	財 産 貸 付 収 入	242,000				242,000	225,440		16,560	
	生 産 物 売 払 収 入	42,386,000	11,498,000			53,884,000	78,294,015		△ 24,410,015	
	家 畜 類 売 払 収 入	30,776,000	4,111,000			34,887,000	26,131,468		8,755,532	
	農 業 等 検 定 受 託 事 業 収 入	11,864,000	△ 866,000			10,998,000	10,997,910		90	
	農 林 水 産 研 究 高 度 化 事 業 受 託 収 入	3,200,000	△ 200,000			3,000,000	3,000,000	0	0	
	農 業 ・ 食 品 産 業 技 術 総 合 研 究 機 構 受 託 事 業 収 入	200,000	400,000			600,000	600,000	0	0	
	日 本 種 苗 協 会 受 託 事 業 収 入	0	300,000			300,000	300,000	0	0	
	繰 越 金	0		2,365,750		2,365,750	2,365,750		0	
	雑 入	910,000		2,418,000		3,328,000	4,201,104		△ 873,104	
	農 林 水 産 業 債	34,000,000		20,000,000		54,000,000	53,000,000		1,000,000	
一 般 県 費 充 当	小 計	143,663,000	15,498,000	24,783,750	0	183,944,750	199,903,187	819,000	△ 16,777,437	
	一 般 県 費 充 当	496,181,000	6,095,000	0	0	502,276,000	412,257,343	18,062,000	71,956,657	
	合 計	639,844,000	21,593,000	24,783,750	0	686,220,750	612,160,530	18,881,000	55,179,220	

8 事業別実施状況調べ

(単位：円)

事業名	予算額	支出済額	翌年度繰越額	差引残額	事業の計画と実績・成果
(林業試験場費)					
林業試験場管理運営費	44,937,000	39,733,022		5,203,978	施設の維持管理、非常勤職員の雇用等試験場の管理運営を行った。
試験研究費	13,379,000	11,180,919		2,198,081	森林管理及び木材利用に関する13課題の試験研究を行った。
林木品種改良事業	184,000	85,280		98,720	スギ次代検定林2箇所の定期調査を行った。
施設整備費	629,000	459,900		169,100	試験研究に必要な備品の整備
ふれあい集う森の試験場発見事業	1,930,000	1,300,800		629,200	広く県民の声を聞くため、公開講座「森のいろは塾」、試験発表会「森林・林業・木材フォーラム」を実施した。
目計	61,059,000	52,759,921	0	8,299,079	
合計	61,059,000	52,759,921	0	8,299,079	

9 予備費の充用調べ

該当なし

10 繰越関係調べ

(1) 継続費通次繰越調べ

該当なし

(2) 繰越明許費調べ

該当なし

(3) 事故繰越調べ

該当なし

11 収入証紙取扱額調べ

(単位:円)

収入科目		件数	単価	証紙はりつけ額	備考
目	節				
	細節	62	400	24,800	鳥取県林業試験場手数料等徴収条例
		4	460	1,840	鳥取県林業試験場手数料等徴収条例
		24	1,090	26,160	鳥取県林業試験場手数料等徴収条例
		19	1,470	27,930	鳥取県林業試験場手数料等徴収条例
		4	4,160	16,640	鳥取県林業試験場手数料等徴収条例
		1	4,170	4,170	鳥取県林業試験場手数料等徴収条例
		2	9,710	19,420	鳥取県林業試験場手数料等徴収条例
	計(節)	116		120,960	
	目 計			120,960	
	合 計			120,960	

12 収入事務処理状況調べ

(1) 分担金及び負担金

該当なし

(2) 使用料

(単位:円)

収入科目	目		件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令等	備考
	節	細節							
農林水産業使用料	林業試験場使用料		48	78,900	78,900	0	0	鳥取県林業試験場手数料等徴収条例	
	計(節)		48	78,900	78,900	0	0		
行政財産使用料	行政財産使用料		14	354,172	354,172	0	0	鳥取県行政財産使用料条例	
	計(節)		14	354,172	354,172	0	0		
目計			62	433,072	433,072	0	0		
合計			62	433,072	433,072	0	0		

(3) 手数料

該当なし

(4) 財産収入

該当なし

(5) 寄付金

該当なし

(6) 諸収入

(単位:円)

目	収入科目		件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
	節	細節							
雑入	雑入		7	89,870	89,870	0	0		
目計				89,870	0	0			
合計				179,740	89,870	0	0		

(7) 現金の取扱状況

該当なし

13 収入未済額調べ

該当なし

14 未収金回収促進のための取り組み状況調べ

該当なし

15 税外収入不納欠損額調べ

該当なし

16 債務負担行為の状況調べ

(単位：円)

事業名	種別	設定状況			当該事業の契約額等	執行(支出)状況				備考
		議決	期間	限度額		設定年度の執行額A	債務負担行為の期間		合計 A+B	
							23年度までの執行額	24年度執行額		
林業試験場施設管理業務委託	委託料	H23年12月	H24年度から H26年度まで	474,000	0	0	138,600	277,200	415,800	
合計				474,000	0	0	138,600	277,200	415,800	

17 負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ

(1)負担金

(単位：円)

予算科目(目)	予算額	区分	負担金の名称	支出先	負担率	支出年月日	支出金額	支出の根拠法令等(規約、要綱等を含む)	備考
支出金額が10万円未満のもの							52,000		
目計							52,000		
合計							52,000		

(2)補助金

該当なし

(2-2)補助金(他課から予算の配当替え又は令達を受けて執行するもの)

該当なし

(3)交付金

該当なし

(4)委託料

予算科目 (目)	国 補 単 県 の 別	委託料の名称	委託契約の 相手方	当初契約			完了 年月日	支出の状況			備考	
				予定価格	契約期間			入札等 年月日 (契約保証金納 付等年月日)	支出 区分	支出 年月日		金額
					変更契約(最終)	契約期間						
林業試験場費	単県	庁舎警備業務委託	ALSOK山陰(株)	474,000	(H24.4.1) 415,800	H24.4.1 ~ H27.3.31	H24.3.28 (免除)	精算	H24.5.18外	138,600	債務負担行為	
林業試験場費	単県	廃棄物(木屑)収集運搬 処理業務委託	(財)鳥取市環境事業公 社	5,775円/㎡	(H24.4.1) 3,675円/㎡	H24.4.1 ~ H25.3.31	H24.3.27 (免除)	精算	H24.7.26外	161,700		
林業試験場費	単県	溜池残土処分業務委託	(株)さくら建設	227,000	(H24.4.12) 184,800	H24.4.12 ~ H24.4.30	H24.4.9 (免除)	精算	H24.5.15	184,800		
林業試験場費	単県	県立「21世紀の森」維持 管理作業(第1回)業務委 託	(有)紀幸	998,000	(H24.6.20) 456,120	H24.6.20 ~ H24.6.30	H24.6.29 (免除)	精算	H24.7.29	456,120		
林業試験場費	単県	県立「21世紀の森」維持 管理作業(第2回)業務委 託	(有)紀幸	735,000	(H24.9.13) 378,000	H24.9.12 ~ H24.10.31	H24.10.22 (免除)	精算	H24.11.12	378,000		
林業試験場費	単県	高性能林業機械のモデル 試験	鳥取県中部森林組合	625,000	(H24.11.21) 624,750	H24.11.21 ~ H25.2.23	H24.1.16 (免除)	精算	H25.3.4	396,900		
林業試験場費	単県	各種ブレスの保守点検	岡崎機械(株)鳥取営業 所	934,500	(H24.12.3) 777,000	H24.12.3 ~ H25.3.28	H24.11.16 (免除)	精算	H25.3.29	624,750		
林業試験場費	単県	実大試験機及びパネル強 度試験機の保守点検	鳥取科学器械(株)				H24.12.7 (免除)	精算	H25.3.29	777,000		
予定価格が20万円 未満のもの							H25.3.15			2,403,812		
目計										5,521,682		
合計										5,521,682		

(単位:円)

(4-2)委託料(他課から予算の配当替え又は令達を受けて執行したもの) 該当なし

18 工事請負費調べ 該当なし

18-2 工事請負費調べ(他課から予算の配当替え又は令達を受けて執行したもの) 該当なし

19 財産に関する調べ
(1)公有財産
ア 土地

行政・普通財産の区分	施設名等	所在地	前年度末		本年度異動状況		本年度末		備考
			面積(m ²)	価額(円)	異動日	面積(m ²)	価額(円)	面積(m ²)	
行政財産	林業試験場敷地	鳥取市河原町稻常113	26,721,324.00	0			26,721,324.00	0	
普通財産	-		0.00	0			0.00	0	
計			26,721,324.00	0			26,721,324.00	0	
合計			26,721,324.00	0			26,721,324.00	0	

イ 建物

行政・普通財産の区分	施設名等	所在地	前年度末		本年度異動状況		本年度末		備考
			面積(m ²)	価額(円)	異動日	面積(m ²)	価額(円)	面積(m ²)	
	事務所	鳥取市河原町稻常113	1,174.98	202,704,824			1,174.98	202,704,824	
	プロハン庫	"	8.88	702,100			8.88	702,100	
	ホンプ室	"	12.66	1,810,500			12.66	1,810,500	
	発電気室	"	29.75	7,359,500			29.75	7,359,500	
	作業農機具舎	"	320.80	23,913,000			320.80	23,913,000	
	車庫機械美談室	"	196.00	15,886,000			196.00	15,886,000	
	昆虫飼育棟	"	50.00	6,205,000			50.00	6,205,000	
	ガラス室	"	194.40	11,348,000			194.40	11,348,000	
	温室	"	100.30	11,414,000			100.30	11,414,000	
	機械室	"	12.00	5,115,000			12.00	5,115,000	
	堆肥舎	"	50.00	3,152,000			50.00	3,152,000	
	便所	"	10.21	1,250,000			10.21	1,250,000	
	木材加工研究棟	"	936.60	225,223,920			936.60	225,223,920	
	廃液保管庫	"	9.80	589,050			9.80	589,050	
	製品保管庫	"	60.00	4,515,000			60.00	4,515,000	
	木材技術工芸実習館	"	256.25	30,069,682			256.25	30,069,682	
	森林学習展示館	"	326.00	35,805,226			326.00	35,805,226	
	苗木養成等実習室	"	96.99	8,897,000			96.99	8,897,000	
	野鳥等自然観察施設	"	16.81	1,653,000			16.81	1,653,000	
計			3,862.43	597,612,802			3,862.43	597,612,802	
普通財産	-								
計			0.00	0			0.00	0	
合計			3,862.43	597,612,802			3,862.43	597,612,802	

ウ	山林	該当なし
エ	不動産売却	該当なし
オ	財産の交換	該当なし
カ	動産（船舶、浮標、浮棧橋、浮ドック、航空機）	該当なし
キ	物権	該当なし
ク	無体財産権（特許権、著作権、商標権、実用新案件等）	該当なし
ケ	有価証券	該当なし
コ	出資による権利	該当なし

(2) 金券類の受払状況

ア 金券の受払状況

(平成25年3月31日現在)

種 別	前年度末 円	本 年 度 中		本年度末 円	備 考
		購 入 額 円	使 用 額 円		
郵便切手及び 郵便はがき	39,390	186,190	141,720	83,860	
収入印紙	0	0	0	0	
収入証紙	0	0	0	0	
タクシークー ポン券	0	0	0	0	
鉄道バスブリ ベードカード	0	0	0	0	
図書カード	71,989	17,000	38,500	50,489	研究発表・研修講師により取得
合 計	111,379	203,190	180,220	134,349	

イ タクシーチケットの受払状況 該当なし

(3) 基金 該当なし

(4) 債権

(平成25年3月31日現在)

債権の名称	前年度末 現在高		本年度中				本年度末 現在高		備考
	金額	件数	増 金額	件数	減 金額	件数	金額	件数	
行政財産使用料	103,500	1	0	0	34,500	0	69,000	1	(株)中国電力 柱9本支柱1本支線13条
	2,688	1	0	0	672	0	2,016	1	自動販売機
合計	106,188	2	0	0	35,172	0	71,016	2	

20 財産の貸付け及び使用許可調べ

(1) 土地及び建物
ア 土地

行政・普通財産の区分	貸付(使用許可)目的	所在地	数量又は面積	貸付(使用許可)年月日	当初貸付(使用許可)年月日	貸付(使用許可)期間	貸付(使用)料(円)		貸付(使用許可)先住所氏名	備考
							単価	本年度の貸付(使用)料		
	電力供給施設設置	鳥取市河原町稲常113	コンクリート柱9本 支柱1本 支線13条	H22.4.1	H12.4.1	H22.4.1~H27.3.31	年額 34,500	34,500	鳥取市新品治町1-6 中国電力(株)鳥取営業所	
	工共下水道設置	鳥取市河原町稲常113	38.49㎡	H22.4.1	H13.1.31	H22.4.1~H27.3.31	月額・年額 免除		鳥取市尚徳町116 鳥取市	
	自動販売機	鳥取市河原町稲常113	2㎡	H23.10.1	H23.10.1	H23.10.1~H28.3.31	年額 月額・年額	672	鳥取市緑ヶ丘2丁目667-14 (株)戸信	
計								35,172		
普通財産							月額・年額			
							月額・年額			
							月額・年額			
							月額・年額			
計								0		
合計								35,172		

イ 建物
(2) 物品
該当なし
該当なし

21 借受不動産明細調べ
該当なし

22 職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ

(1) 職員住宅 該当なし

(2) 職員駐車場
ア 管理状況

財産の区分	所在地	1区画の面積 (㎡)	貸付(使用)料(月額) (円)
行政財産	農林総合研究所林業試験場(鳥取市河原町稲常113)	12.5	1,000
普通財産			

イ 異動状況
(行政・普通財産)

月別	前月末	当月減		当月増		当月末		調定額	収入済額	収入未済額
		人	うち減免	人	うち減免	人	うち減免			
4月	26	人	人	人	人	26	人	円		
5月	26					26	26	26,000		
6月	27			2		26	26	26,000		
7月	27					26	26	26,000		
8月	27					26	26	26,000		
9月	27					27	27	27,000		
10月	27					27	27	27,000		
11月	27					27	27	27,000		
12月	27					27	27	27,000		
1月	26					25	25	26,000		
2月	28			3		30	30	28,000		
3月	27					26	26	27,000		
合計								319,000	円	円

23 自動車(二輪を除く)の管理状況調べ 該当なし

24 寄附物件の受納状況調べ 該当なし

25 備品の処分状況調べ

品名 (規格・銘柄)	数量	(保管換年月日) 取得年月日	耐用年数	取得価格 円	不用決定年月 日	不用とする理由	処分			備考	
							売却棄却の別	売却方法・棄却理由	処分 年月日		売却額・処分 費用 円
焼却炉	1	H9.5.29	5年	829,500	H25.1.10	法改正により使用不可	棄却	産業廃棄物処理	H25.2.4	63,498	
圃場内運搬機	1	H1.6.5	4	370,800	H24.5.15	使用不能のため	棄却	処分業者引取り	H24.5.15	0	
合計	2			1,200,300						63,498	

26 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ

現金、有価証券	数量	金額	出納員又は 使用者職氏名	亡失、損傷年 月日、時	同左場所	同左概要	報告 年月日	会計局の 審査結果
軽貨物車	1	12,705 (リース車両)	研究員 宮本 和則	H24.5.16	青谷町八葉寺	テールランプ破損	H24.5.18	無
合計		12,705						

27 貸付金等状況調べ 該当なし

28 事業別予算執行状況調べ

目 名		環境保全費	(平成25年 5月31日現在)
事業名	事業の概要（目的、実績等）		
酸性雨調査事業	モニタリング調査により植生等の変化を調査し、酸性雨等による森林への影響を監視する経費		

目 名		森林病虫害防除費
事業名	事業の概要（目的、実績等）	
松くい虫等防除事業	マツノマダラカミキリの発生予察、県内の被害調査、薬剤による被害防止効果等の調査に要する経費	

目 名		林業振興費
事業名	事業の概要（目的、実績等）	
樹苗養成事業	抵抗性クロマツ採種園造成用の接木苗に要する経費	

目 名		住宅建設費
事業名	事業の概要（目的、実績等）	
鳥取エコハウス推進事業	県産スギ材の厚板を使った耐力壁の壁倍率試験（耐震性能試験）を行い、木造住宅軸組の壁倍率の国土交通大臣認定を取得するための構造の検討を行うのに要する経費	

目 名	土木費
-----	-----

(平成25年 5月31日現在)

事業名	事業の概要（目的、実績等）
県産木材率先活用のための防護柵等点検診断事業（道路版）	公共事業において、県産木材利用製品の劣化等に対する点検、診断を行うことにより、安心して県産木材を利用したガードレールや転落防止柵などを活用できる体制を整備するために要する経費

29 農業機械の管理状況

(平成25年 3月31日現在)

品名	型式 及び 規格	取得 年月日	用途	稼動 日数 日	燃料		修繕費等 円	左の主な内容 円	備考
					消費量 ℓ	金額 円			
トラクター	ヤンマー AF22XY55D B	H16 6.10	耕耘、他	4	10	1,260	0		
圃場内運搬機	カワシマ AC1510DB	H1 6.5	運搬	0	0	0	0		H24.5.15 廃棄
圃場内運搬機	カワシマ AC1510DBA	H8 7.29	運搬	22	22	3,310	0		
圃場内運搬機	AC19D	H24 5.15	運搬	98	78	11,730	0		
5N-SPフォー クリフト	トヨタ 6FD30	H7 10.20	木材運搬	190	99	12,416	103,141	自主検査及び修 繕 44,100円 オイル交換他 28,423円 ブレーキング他 18,018円 屋根シート 12,600円	
計						24,146	119,731		

30 生産物(品)に関する調べ

該当なし

事業名	付加価値の高い緑化苗木の効率的生産技術の開発		担当室別	森林管理研究室
実施計画期間	22年度 ～ 24年度		(予算額) 支出済額	(445,000円) 339,368円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
雌雄判別技術の確立(単)	鳥取市河原町(林試苗畑)、県内民間苗畑2カ所	アオハダなどの苗木約2,300本	・着花に効果的な薬剤処理濃度・時期などの探索。	(成果)苗木の葉を硫酸銅水溶液に浸漬することにより、数樹種で雌雄により変色反応が異なることがわかった。 (課題)今後は確実に判別できる浸漬時間と濃度を明らかにする必要がある。
ドングリ類の発芽促進技術の確立(単)	鳥取市河原町(林試苗畑)	マテバシイなどのドングリ1,000粒	・ドングリ類の発芽促進に効果的な方法の探索。	(成果)1年型ドングリ(シラカシ、マテバシイ)の発芽促進には、低温を経験させる、花柱を切除する、適切な発芽温度が必要なことを明らかにした。 (課題)今後、生産者研修会や現地指導等を行い、成果の普及を図る必要がある。

事業名	スギ人工林の品質向上に関する施業技術の確立		担当室別	森林管理研究室
実施計画期間	22年度 ～ 26年度		(予算額) 支出済額	(1,367,000円) 1,176,648円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
林分ごとにスギ材の評価方法を提案し、材の付加価値を高める(単)	智頭町 林業試験場	○スギ36本 ○ミクロフィブリル傾角(MFA)資料54データ ○樹幹解析資料54データ	①成熟材移行齢と施業との関係を明らかにするため、精英樹3品種、在来品種及びオキノヤマスギについて成熟材移行齢と直径成長曲線との関係を調べた。 ②心材促進を目的とした枝打ち強度の異なる試験木について2年目の調査を行った。	(成果)幼壮齢期に直径成長が変動する回数が多い個体は変動回数が少ない個体に比べて成熟材移行齢が高齢になることが示唆された。また、強度枝打ちが顕著な心材促進化を示した初年度結果に対して、2年目の順位関係は維持されたが心材増加は緩慢であった。 (課題)施業と成熟材移行齢との関係はデータ補充と詳細吟味が必要である。オキノヤマスギは複合クローンと考えられるため、クローン構成を確認する必要がある。

事業名	ナラ類集団枯損被害の初期防除と拡大防止手法の開発		担当室別	森林管理研究室
実施計画期間	23年度 ～ 25年度		(予算額) 支出済額	(967,000円) 900,968円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
初期防除法の開発 (単・一部補助)	青谷町 三朝町 青谷町	被害木等 200本 被害木等 200本 被害木等 50本	①樹幹基部への粘着資材の設置による枯死被害の予防・軽減効果を明らかにする。 ②被害木の割材によるカシノナガキクイムシの駆除効果を調べる。	(成果) 粘着資材の設置により、1試験地で被害軽減効果が認められたが、他の3試験地では効果が判然としなかった。 被害木を1mあるいは50cm長に割材することにより、無割材1m丸太と比較しカシノナガキクイムシ成虫の脱出頭数が有意に少なく、駆除効果は99%と推定された。 (課題)粘着資材による被害予防効果について追試するとともに、同資材を内向きに設置することによる被害材の駆除効果を調査する必要がある。

事業名	松くい虫被害地におけるクロマツ苗木の活着率向上試験		担当室別	森林管理研究室
実施計画期間	23年度 ～ 25年度		(予算額) 支出済額	(602,000円) 494,090円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
松くい虫抵抗性苗木の活着率を高める技術の確立 (単)	鳥取市 林業試験場	試験植栽木140本	苗木植栽時に用いる保水材の使用方法を明らかにする。	(成果) 保水材を用いる場合には十分に吸水させた保水材を用いることが肝要であり、吸水した保水材を苗木の根に付着させる方法は活着率が高く、作業性・経済性に優れることがわかった。 (課題) 治山事業及びボランティア等の植栽にあたってのマニュアルを作成する必要がある。

事業名	高性能林業機械の稼働率を向上させる現地モデル試験		担当室別	森林管理研究室
実施計画期間	23年度 ～ 25年度		(予算額) 支出済額	(1,378,000円) 736,220円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
高性能林業機械の稼働率を上げる作業方法の解明 (単)	【試験】 八頭町	3カ所	①伐木及び木寄せ造材作業について現地モデル試験を行い、生産性の高い伐木方法と路網密度を明らかにする。 ②伐出作業の実態調査から、各工程の最適な区域分けを明らかにする。	(成果) 「6 主な事業に関する調べに記載」
	【調査】 八頭町 鳥取市	1カ所 1カ所		(課題) 「6 主な事業に関する調べに記載」

事業名	地下流水音探査法を用いた効果的山地災害防止技術の確立		担当室別	森林管理研究室
実施計画期間	24年度 ～ 26年度		(予算額) 支出済額	(601,000円) 373,520円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
地下流水音探査法による限られた地質における先行研究の調査結果が、鳥取県内の異なる地質にも適用可能か実証試験を行う。 (単)	【調査】 鳥取市	1カ所	①地下流水音探査による自然斜面での水みちを推定する。 ②地下流水音探査の最適な測定タイミングを明らかにする。	(成果) 「6 主な事業に関する調べに記載」
				(課題) 「6 主な事業に関する調べに記載」

事業名	ハイブリッド無花粉スギの創出		担当室別	森林管理研究室
実施計画期間	23年度 ～ 33年度		(予算額) 支出済額	(800,000円) 622,202円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
無花粉であり優良形質でもあるハイブリッド無花粉スギを創出する。 (単)	【調査】 大山町 林業試験場	人工交配 40クローン 苗木 200本	第一段階として、県内無花粉スギの探索、県産無花粉スギの作出及び無花粉遺伝子マーカーの開発に着手する。	(成果) 探索及び作出では、無花粉遺伝子をヘテロで保有する石川県精英樹珠洲2号と本県精英樹等37クローンの人工交配を行った。 (課題) 近交弱勢の回避と試験期間の短縮を図るため、精英樹等と富山県産無花粉スギとの人工交配を進める必要がある。

事業名	林木品種改良事業		担当室別	森林管理研究室
実施計画期間	23年度 ～ 年度		(予算額) 支出済額	(184,000円) 85,280円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
林業種苗法に基づき主要造林樹種の品種改良を行う。 (単)	県内一円	スギ18箇所21.0ha、ヒノキ11箇所11.0ha	設定から40年目の次代検定林1箇所(スギ1.0ha)の定期調査を行う。	(成果) 品種毎に樹高、胸高直径、枝下高、幹の通直性、病虫害及び風雪害を調査し、育種母材の特徴を明らかにした。 (課題)

事業名	県産材の住宅内装用床材としての性能評価とデータベース化		担当室別	木材利用研究室
実施計画期間	22年度 ～ 24年度		(予算額) 支出済額	(503,000円) 411,126円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
県産材の住宅内装用床材に関する各種性能評価を行う(単)	林業試験場及び鳥取大学	県産スギ・ヒノキ材等	床板材の表面劣化状況調査・曲げ性能(たわみ)・伝熱性能(接触温冷感)試験を実施	(成果)
				「6 主な事業に関する調べに記載」
				(課題)
				「6 主な事業に関する調べに記載」

事業名	低コスト・高品質な高温乾燥材生産技術の確立		担当室別	木材利用研究室
実施計画期間	22年度 ～ 24年度		(予算額) 支出済額	(1,068,000円) 938,541円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
乾燥材生産の低コスト化と品質向上に対する技術開発を行う(単)	鳥取市河原町 林業試験場構内 若桜町若桜製材工場内	県産スギ材	天然乾燥時に材表面の割れが入らない天乾期間の解明と人工乾燥後の含水率を調査し前処理と併せた乾燥スケジュールの検討を実施する。	(成果)
				天乾時期で、春・夏・秋は湿度の影響を受けるため、木口面の割れの入り状況を把握しながら実施することが重要。冬期は20日～30に程度の期間が最も表面割れが入りにくいことが実証され天乾を行うことが可能。乾燥スケジュールでは従来の乾燥日数より2日程度は短縮が可能であることが分かった。
				(課題)
				実証した成果に基づき現場への普及を実施していくことが必要。

事業名	県産材と伝統技術を有効に活用した住宅用耐力壁の開発		担当室別	木材利用研究室
実施計画期間	23年度 ～ 25年度		(予算額) 支出済額	(1,820,000円) 1,790,831円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
県産材と伝統技術を有効に活用した耐震リフォームに活用できる工法を開発し耐震性の向上と県産材の需要拡大、県内工務店の技術の継承につなげる(単)	林業試験場	県産スギ厚板を使った耐力壁：6種類	既存の住宅の耐震改修を行う際に採用しやすい構造を開発することとしており、本年度は12体の試験を予定。	(成果) スギ厚板による耐力壁の構造で厚さ24mmとヒノキダボを使用した耐力壁を開発した。壁倍率2倍程度が可能でリフォームの基礎・土台・柱の緊結により壁倍率4倍から2倍程度までを状況によって設置が可能。 (課題) 柱脚金物にあった耐力壁を今後も検討していくことが必要。

事業名	県産ヒノキ材の横架材としての利用技術の開発		担当室別	木材利用研究室
実施計画期間	23年度 ～ 25年度		(予算額) 支出済額	(1,290,000円) 1,160,096円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
低価格で取引されているヒノキB・C材の強度性能を明らかにして、横架材としての利用を図る(単)	林業試験場及び県内製材工場	県産ヒノキ 300本	市場においてB・C材として選別されたヒノキ丸太の欠点調査と梁材製材後の強度性能試験	(成果) ヒノキB・C材を60本入手し、欠点の原因となった曲がりや節を調査し、数値化を行った。丸太を製材し平角材に仕上げ実大強度試験を実施した結果、ほとんどが国土交通省告示による無等級材の基準強度を上回っていたが、基準を下回る試験材もあった。 (課題) 基準を下回った試験材の原因を解明し、選別段階で横架材としての利用から外す必要があり、今後の調査が必要。

事業名	スギ・ヒノキを活用したハイブリッド LVL生産・利用技術の確立		担当室別	木材利用研究室
実施計画期間	23年度 ～ 25年度		(予算額) 支出済額	(1,038,000円) 967,749円
試験研究 調査の目的	試験研究調 査を行う場 所	試験研究 調 査 の 対 象 ・ 数 量 ・ 範 囲	本年度の試験研究 調 査 等 の 目 標	試験研究調査の成果・課題
スギ・ヒノキを 活用したハイ ブリッドLVL の生産及び 利用技術の確 立 (単)	(株)オロチ 及び林業試 験場	県内流通 のスギ、ヒ ノキ材	スギ・ヒノキの積層接着に 関する基本特性の把握	(成果) 「6 主な事業に関する調べに記載」 (課題) 「6 主な事業に関する調べに記載」

事業名	県産スギ材の材質及び強度に優れた 品種の選抜		担当室別	木材利用研究室
実施計画期間	23年度 ～ 27年度		(予算額) 支出済額	(1,500,000円) 1,269,560円
試験研究 調査の目的	試験研究調 査を行う場 所	試験研究 調 査 の 対 象 ・ 数 量 ・ 範 囲	本年度の試験研究 調 査 等 の 目 標	試験研究調査の成果・課題
森林所有者の 再造林意欲を 高めるため、成 長・材質・強度 に優れたスギ 品種を選抜す る (単)	県有林(中 山採穂園) 及び林業試 験場内試験 林	県内のス ギ立木	精英樹として選抜された スギ30品種から強度性 能の高い樹種を選び実大 強度試験を実施	(成果) 木材中の水分量の推定を行うことで、より高 い精度で品種選抜調査が可能となった。また 、精英樹について現地調査を実施したが、強 度性能の高い品種は見つからなかった。 (課題) 県内の一般造林地での選抜を行う必要があ り、今年度伐採を計画している現場等との調 整が必要。

- 意見、要望等
- (1) 業務に関する要望等

特になし

--

- (2) 監査委員事務局に対する意見・要望等

特になし

--